
時間の裂け目

ミスラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時間の裂け目

【Nコード】

N0341G

【作者名】

ミスラ

【あらすじ】

世界が「魔王」に支配され、魔物も沢山作り出された。その時、一人の男の勇者が魔王に立ち向かっていった。魔王と魔物は姿を見せなくなり、世界は救われた。しかし、勇者はいつまで経っても、帰ってはこなかった…

第1話：旅立ちの日（前書き）

初めての小説なんで、文章構成が変かも知れません（汗

第1話：旅立ちの日

太陽が昇り、村に光りが射し、少し時間が経ったあと、一階から声がした。

「キアラン！いつまで寝てるの？」

「…うん」

キアランと呼ばれる少年は朝が弱いらしい。

一度起きたと思ったら、また布団に潜ってしまった。

「お兄ちゃん、まだ寝てるよ！」

妹のポーリーだ。今年で10才になる。

ちくられた、くそう。

「起・き・な・さ・い！！！」

「はいっ！！！」

母さんに叩き起こされてしまった。

朝ってなんで眠たいんだろう。夜は寝たくても眠れないのに。

こういう時に限って、遠い離れた村まで行く用がある。

用とは…秘密だ。隠す程でもないけど。

朝食はトースト。我が家の決まりだ。

食べ終わり、顔を洗い服を着る。

「それそろ行こうかな」

「気をつけてね〜」
「ポリーだ。」

「体の健康には気をつけるんだよ」

「わかったよ、母さん。一週間ぐらいで帰るからね」

「「いつてらっしゃ〜い!〜!」」

「「いつてきます!〜!」」

そして家をあとにした。

第1話：旅立ちの日（後書き）

がちがちでんがな！（え

第2話：大騒動（前書き）

お待ちせしました！「第2話：大騒動」の始まりですっ！

第2話：大騒動

家を出ると、最初に肌で感じたのは朝日の光だった。

「気持ちいいな、あたたかいや」

12月の朝は寒いが、朝日のおかげでなんとかやっていける。

思っているのは自分だけか？

いやいや、他にもいるかも… 知れない。

我に返ると人に見られてた。
恥ずかしい。

それはそうと、村の外は広大な草原。

魔物はいないが、凶暴な動物達がいる。

まだ、戦った事はないが。

16才のキアランだが、一人で草原に行ったことは無かった。

隣の家のおじいさんのお古の剣をもらったから大丈夫だろう。
まだ使えると思う。

練習はしてきたつもりだ。

動物に通用するであろうか。
少し心配になった。

歩いていると、あるものが目に入った。

「なんだ、あれ？」

建物が燃えている。

「火事か！」

近くに、ある動物がいた。

『ファイアータイガー』だ！

虎のくせに炎をはく、らしい。

危険度レベル2に指定されていたはず。最高はレベル10だったかな？

よく見ると少女が食い止めているのが目に入った。

杖で殴っている。魔法使いか。

でもなぜ殴る？魔法は使わないのか？それでも見習い？

そんなけど、今はどうでもいい。

無我夢中で近づき、剣を叩きこんだ。

見事に当たり、『ファイアータイガー』が雄叫びをあげる。

そのまま静かに倒れる、かと思われた。

だがまだ生きている。

そのまま、こっちに向かって炎をはいてきた。

体勢が悪くよけられない！

「しまった！」

ゴオオオオオオオッ

「…あれ？熱くない」

よくみると、目の前に水の壁が出来ていた。

あの子か、助かった！

「これでもくらえ！大回転爆発切り！」

名前だけの、普通の切りつけが当たった！

今度こそ倒れた！

そのまま『ファイアータイガー』は動かなくなった。

「倒せた…」

ほっとした。

「あんた、なかなかやるわね！」
さっきの少女だ。

「助けてくれてありがとう。わたしミラ！よろしく！」

「俺はキアラン、よろしく。あと、さっきのバリアー、君だよね？
助かったよ」

「ちゃんと出てた？守れてた？」

「まあ、助かったよ」

「よかった、まだ未完成の技なのよ」

「えっ？」

失敗してたら俺はマルコゲだったということか。今思えばぞっとする。

「…見習い、だよな？」

「……」

「え、違うの？」

「……その通りよ。悪かったわね、魔法がへたくそで」

「そっいう意味じゃ…」

「よし、決めた」

「？」

「隣の村までいっしょに着いてきてよ」

なぜそうなる

「家がそこなんだけど迷っちゃって」

「いやいや、まっすぐ歩いたら着くだろ！」

「方向音痴なの」

「…そうすか」

「一生のお願いっ」

「しょうがない、命の恩人だしついでだから、ついていってやるよ」

「本当？ありがとー！助かる！」

世話の焼ける少女だ。
強制的に決まった気がする。

「ところで歳いくつ？」

「16だけど？」

…同じですか

第2話：大騒動（後書き）

結構こじつけたったかも？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0341g/>

時間の裂け目

2011年1月20日04時25分発行